

(15)0602 意識が背丈をのばす？

縦細（たてぼそ）になった日本女性
わたしの年齢になると若いときと
は違ったことがとても気になること
があります。その一つに、日本の若
い女性の細く縦長な体格へ変わって
いることがあります。そして細く縦
長なこと自体と、どうしてそうなる
のかということです。

最近では、日本人は全体でいうと肥
満傾向です。生活習慣病対策からみ
て、体格係数（BMI：body mass index
=体重（Kg）/身長（M）²）>25は肥満と
されますが、日本人の7割以上が肥
満、平均BMIは男女とも27.8です。
このことが生活習慣病（わたしは、
生活習慣急変病というのが適切だと思
っています）が、社会全体の問題
になってくる諸悪の根元という人も

います。ところが若い女性は、これからはずれれるのです。ちなみに、マスコミなどでは、食事にはまったく関係のないやせるための方法・手段を含めてすべてダイエットという言い方で表現していますが、英語の diet は、食事・食事療法ですから、例えば、拒食症の人には食べて太るようにするのがダイエットということもあり、間違っています。わたしは、体重を減らす目的から左手で食事をすることをしていますが、「阿岸先生の左手ダイエット」とされてしまうのです。

若い女性、わたしの見るところでは 30 才前半より若い人の体型が以前の日本人の典型であるポッチャリ型から小頭、縦長、細型、足長の体型に変わったようです。あんまり細すぎると母性という点から大丈夫な

のかなと思ったりしますが、女性性と母性とは別のものという価値観もあるでしょうから深入りはしないことにします。

勿論、体格についての年次統計はありますが、身長・体重などについてのことで、全体のバランスについての観察報告は見たことはありません。

どうして体型が変わったのか？

それで、次の気になる疑問は、どうしてそうなるかということです。そのことについては、第二次世界大戦後にそれまでの畳に座る生活から椅子に座る生活に変わった、食事が変わった、ものの考え方が自由に伸びやかになったことが関係することがいわれたりします。大きくいえば、やはり生活習慣の変化です。しかし、もしそれが本当なら Darwinism

(Darwin の唱えた進化論的な考え方) は、否定される、あるいは、適合しないということになります。

進化論については、わたしも世間並みの理解しかないのでありますが、こういうことになりましょう。体型が遺伝子によって規定されていると、普通、われわれは考えていますが、ここでもそう仮定することにします。環境の変化などの刺激によって遺伝子の変化が起き(突然変異)、体型が変わるとします。突然変異の起こる頻度と方向性は本来 ad lib で at random な筈ですから体型が変わる方向へ収束する確率はかなり低いと考えられます。表面的には、自然淘汰・適者生存として見られるでしょう。これは、人の世代交代・継承の経過で行われるのですから、形質として固定するには、数千年～数万年

～ 数十万年の年月がかかるのではないのでしょうか。それが、わずか数十年の間で起こったのです。まだあります。もし、生活習慣・生活環境の変化に由来するなら、男性もそうなるはずです。若い男性でも体型の変わった兆候はありますが、女性ほど顕著ではないようです。これは、わたしの関心度の問題かも知れません。さらに、不思議なのは、女性に見られる変化がかなり高率に、一般的現象として起こっているらしいことです。一斉に起こる遺伝子変化は、むしろ奇妙ではないですか。Darwinismでは、説明できないとする理由です。

気で体型の変化が起こる？

この話を札幌北榆病院の川村明夫先生としたことがあります。そうしたら、彼は、「気のせいではないか」と

いうのです。つまり、多くの若い女性が、細くなりたい、高くなりたいたい、いつも思う・願う・希求した結果そうなったというのです。そんなことをいった人は今までいませんでした。わたしは、川村先生もさすがにいいところまで来たと思いました。これまでに何回か書いたように、わたしは、外気功を治療に応用することに始まり、最近では、広く代替・補完・伝統・民間医療と呼ばれるものに興味を抱き、川村先生を引き込んで、日本代替・相補・伝統医療連合会議（JACT）北海道支部事務局長として活躍していただいているのです。いいところまでとは、失礼ながら、かなり本質的なことを理解してこられたという意味です。でもそれから先は、どうして気が背を高くすることにつながるのかは、説明できない

ままでした。フラストレーションがさらに積みまりました。

遺伝子に作用する心

ところが、説明ができたのです。

2001年12月1日～2日に、JACTの第5回大会が開かれました。村上和雄筑波大学名誉教授が「心と遺伝」と題する特別講演をされた中で、“遺伝子は電気のスイッチのようにon-offして機能する、on-offは化学的・物理的・精神的刺激などによって起こる”(ようである、らしい、と考えられる)といわれました。ビビッときました。これです。なりたい・なりたいの頻繁な精神的刺激によって体型を細く縦長にする遺伝子がonになったのです。その“気”になると成就するのです。

では、多くの女性に高頻度に発生

するのはなぜか。気の所為（せい）
です。気の生物学的意義を説明する
のに、集団的無意識という概念を入
れたりします。ユングの考えですが、
簡単にいうと、同じ集団に属するも
の（人間・動物・生物・無生物にま
でこの考えを及ぼすことがあります）
には、意識しない状態で共通の
精神的（心的・靈的）情報が所有さ
れるといったことです。例えば、あ
る島で猿が海水で芋を洗うようにな
り、ほかの仲間の猿も芋を洗うよう
になった。それが頻度的にある程度
一般化したとき、ほかの島の猿も芋
を洗うようになったときの説明に応
用されるのです。

これでわたしは、かなりすっきり
したのですが、いかがですか。その
次の興味は、この人たちの子供の世
代が、細く縦長のままか、祖先返り

するのかということですが。15年～20年後には、結果が分かるはずですが。

挿し絵

9月半ばの北海道積丹（セキタンではなく、シャコタン）半島神恵内（カモエナイ）付近です。すでにちよっと秋めいていました。まだ半島を巡る自動車道路はなく、神恵内が半島西海岸の行き止まりでした。ここでの思い出は、鮪屋で食べた採り立ての桜エビの刺身と吸い物です。文句なし、旨かった。「またくるからね。ここの店の名は？」「お客さん、覚える必要ないよ。街一軒の鮪屋だから。」